



第121回 ほほえみ 開催

4月17日（水）第121回 ほほえみを開催しました。
今回は8名の方が参加してくれました。

次回のほほえみは、5/15（水）14時から16時まで
本館3階 特別会議室での開催となります



【がんサロン事務局より】

『がん告知を受けて、最初にしたことは・・・』

（がん体験記）

「がんですね」

その告知は衝撃的なものでした。

今ではがんは、「死の病ではなくなった」と言われています。「早期なら完治も可能」と言われるまでに医療も進歩しました。

でも、やっぱり「がんです」と言われると、気持ちは乱れます。「死ぬかもしれない・・・」
と、思ってしまう。

そんな私が、がん告知を受けて最初にしたこと——。

それは、“遺影の準備”でした。

本当は、「身の周りの整理をした方がいいのかもしれない」と思いました。でも、がん告知を受けたばかりでは、頭の中があまりにもぐちゃぐちゃ。それに、病に対しての心構えもできてはいません。そんな状況で自分の持ち物の処分など、私自身の命を削るようではできませんでした。

そして次に考えたのが、「手術中や入院中に何かがあるかもしれない。遺影を準備しておこう!」ということでした。“入院中に何かがある”なんて、ほとんどあり得ないことなのかもしれません。でも不安になると、そんなことまで考えてしまいます。

私は風景を写真に収めるのが好きでした。でもアルバムを探してみても、自分が写っている写真はほとんどありませんでした。あったのは書類に添付する、堅苦しい表情の証明写真だけ。

「何も無いよりは、とりあえずこれだけでも用意しておこう」と、『遺影用』と書いた封筒に写真を入れ、ベッドの上に置き、手術に挑むため病院へ向かいました。

昔は、“死の話”は御法度とされていた部分がありました。でも今は、生前葬やエンディングノートを記すなど、誰にでも当たり前に訪れる“死”を口にできる時代になっています。美しく着飾り、遺影用の写真を定期的に撮っている女性も多いとか。

私もがんになってから、「毎年誕生日に遺影を撮ってもらいに写真館へ行こう」と考えていました。が、未だ実現には至っていません（勇気がありません）。

でも自分の写真が何もないアルバムを見て、

「やっぱり遺影の準備は必要だなあ」と感じています。

それはなにも、「がんだから」ではなく、いつ、何が起こるか分からないから。

「もしものため」に・・・。

（北海道／女性／乳がん／がん患者本人）